

特集-コロナ対応に関する各種の本学の取組み

外国人留学生が三重県国際交流財団 インターンシップに参加しました！

グローバル人材教育開発部門の主催で、2020年7月～8月に、外国人留学生1名が三重県国際交流財団でインターンシップに参加しました。コロナ感染のリスクを避けるため、初日の午後を出勤日とした他は、在宅勤務で翻訳作業などを行いました。

インターンシップに参加した学生からは、「将来日本で就職したいと考えている自分にとって大変いい経験になった」などの感想が得られました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)

三重大学生がアメリカの大学生に 三重県について紹介しました！

グローバル人材教育開発部門教員が担当する教養教育科目「三重学：三重の社会と文化」の学生13名が、アメリカの大学の学生に向けて、英語で三重県のことを紹介するポスター発表を行いました。コロナ禍のため留学などが難しい状況下で、オンラインでの国際交流を可能とするVirtual Exchange (VE)の手法を用いて、ブログ上で発表動画を視聴したアメリカの大学生がコメントを書き込んでくれました。

発表者の三重大学生からは「発表を褒めてくださったり三重県のことを知ることができたと言ってくくださったので嬉しかった」、「感想ばかりではなくて、改善点なども書いてくださったので良かった」、「英語学習に対する意欲が増した」などの感想が寄せられました。(グローバル人材教育開発部門 正路真一)

2020年度第1回留学生対象 「就活セミナー」を開きました！

グローバル人材教育開発部門と国際交流センターが連携して、外国人留学生を対象とした「2020年度就活セミナー」の第1回を実施しました。コロナ対策として、今年度の就活セミナーはオンラインでの配信のみとなりました。講師は前年度と同じく名古屋外国人雇用サービスセンターのオリヴェイラ栄里子様で、日本での一般的な就職活動の流れについて説明していただきました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)

参考:

<https://moodle.mie-u.ac.jp/moodle35/course/view.php?id=7377>



(配信されたセミナー動画)

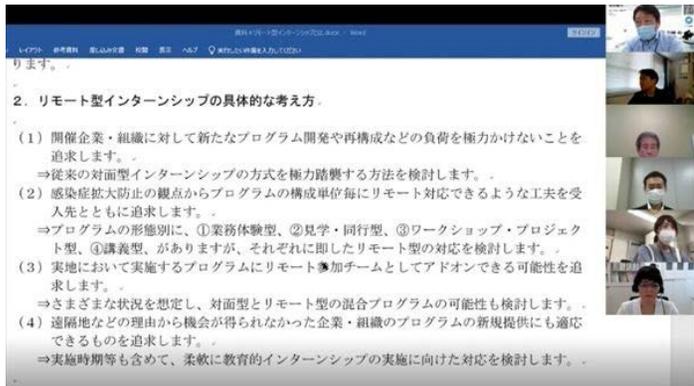


(発表動画を掲載したブログ)

コロナ禍における教育的インターンシップの試み

2020年度の新2年生から三重大大学の教育的インターンシップ卒業要件化の運用が本格化します。そのため、部門長である野崎副学長を筆頭にキャリア支援センターのインターンシップチームのメンバーと共に今年2月から、地元企業を中心とした研修機関との協定締結依頼のために訪問したり、各学部で開催する事前研修会や事後研修会の打ち合わせを重ねたりと準備を進めていました。

ところが、3月に入ると新型コロナウイルスの影響で、事前研修会はもちろんのこと、インターンシップの実施自体も危うくなってきたため、昨年までは講堂に学生を集め、対面で実施していた事前研修会を急遽moodleによるe-learning形式に切り替えることになりました。教職員の在宅勤務や時差出勤が実施される中、各学部の担当教職員の協力も仰ぎながら、短い期間でmoodleのコースや動画を作成し、予定通り6月中旬からe-learning形式の事前研修会を学生に公開することができました。そして三重大大学が実施するインターンシップを「三重大大学リモート型インターンシップ」と銘打ち、従来の訪問型インターンシップに替えてリモート形式での実施を各研修機関に推奨することにしました。そのため、協定を締結した研修機関を対象に、Zoomを活用したオンラインミーティングを実施し、コロナ対策に関する三重大大学としての対応と「三重大大学リモート型インターンシップ」の実施を提言しました。



（「リモート型インターンシップ」に関する企業とのミーティング）

当初は、私もインターンシップチームのメンバーも、リモートで実施するインターンシップを「果たして就業体験と言えるのだろうか」と疑問を抱いていましたが、多くの企業がリモートワークを取り入れていく状況を鑑みると、リモートインターンシップを体験することは、まさに、これからの「新しい生活様式」の中の「新しい働き方」を体験する試みであると納得することができました。

さらに例年、事前研修会と同日に実施していたインターンシップ企業説明会もYouTubeのライブ配信で実施することになり、企業への参加要請や学生への周知等、短い期間で準備をし、こちらも何とか形にすることができました。



（インターンシップ企業説明会で司会をする野崎部門長）

当日は各研修機関が自社からリモートでインターンシッププログラムや企業概要の説明を行い、学生はライブ配信される様子を自宅で視聴し、学生からの質問は、LINEで対応しました。2日間でメーカー、IT、金融、サービスなど様々な業種から延べ29社の参加があり、400人を超える学生が視聴しました。

このように、コロナ禍におけるインターンシップ業務では、私たち教職員にとっても研修機関にとっても初めての試みばかりでしたが、手探りで最善の方法を見つけながら何とか8月から始まるインターンシップに間に合わせることができました。これもひとえに、各学部の担当教職員やインターンシップチームのメンバーが多く時間と労力を割いてインターンシップ実施に向けて奔走くださった賜物だと感謝しています。

これから夏季休業中のインターンシップ参加学生に対するフォローや事後研修会等、コロナ禍での対応が続きますが、学生にとって例年以上の成長と成果が実感できるようなインターンシップの実現に向けて、研修機関と教職員が協働しながら尽力していきたいと思えます。（インターンシップ・キャリア教育開発部門 長岡みか）

参考：
インターンシップ事前研修会
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/employment/2020/06/post-101.html>
「リモート型インターンシップ」企業とのミーティング
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2020/06/post-2037.html>
インターンシップ企業説明会
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2020/06/post-2039.html>
履歴書対策講座
<http://www.mie-u.ac.jp/topics/employment/2020/06/post-103.html>

三重創生ファンタジスタオリジナル授業「三重の歴史と文化」

地域創発部門教員が担当する「日本理解特殊講義『三重の歴史と文化』」の前期講義が終了しました。コロナ禍で全てオンラインでの実施となりましたが、各回のゲストスピーカーが工夫を凝らした講義を行い、学生は深い学びを得られたようです。

このうち、第6回6月24日は友栄水産橋本純氏による「地域資源を活かした観光：水産業」と題してライブ形式の講義を行いました。受講した学生からは「本日の講義を受けて、コロナのような出来事に対しても前向きにとらえたり、その出来事を利用して次のアイデアに転換する大切さを学びました。」等の前向きな意見が多数挙がりました。(地域創発部門 志垣智子)

参考：橋本純氏の関連動画

<http://shirutteoishii.com/pref/mie/yuuei>

<https://www.youtube.com/watch?v=RK6j0kMxosE>



(橋本氏講義風景)

三重創生ファンタジスタ資格取得見込証明書の活用方法説明会を開催しました！

三重創生ファンタジスタ資格取得見込証明書の活用方法についての説明会を実施しました。昨年は対面で行いましたが、今年はコロナ対策としてオンラインで6月30日に2回にわたり実施しました。

本説明会は「三重創生ファンタジスタ資格」の概要説明の他、就職活動への活かし方や民間企業、行政の人事担当者の声を紹介するものです。学生も興味深く話を聞いている様子で、質問も活発に寄せられていました。(地域創発部門 志垣智子)

参考：[http://www.cocpls.mie-](http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/events/0630setsumeikai.html)

[u.ac.jp/events/0630setsumeikai.html](http://www.cocpls.mie-u.ac.jp/events/0630setsumeikai.html)



(三重創生ファンタジスタ資格説明会 動画を紹介)

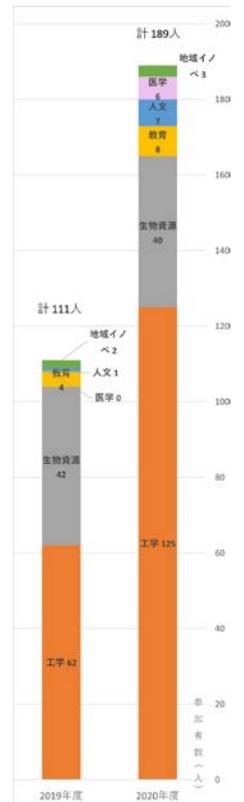
オンラインTA研修を実施しました

TA研修とは、新規採用されたTA(Teaching Assistant)が、授業運営に携わる際に必要な基本的な心構えや基礎知識を学ぶ機会のことです。TA研修は例年4月にグループワークを中心に対面で行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、Moodle3.5を用いてオンラインで実施しました。

単位修得を目指す正課授業とは異なり、任意参加となるTA研修では、学習への動機付けが重要となります。そこで、今回ゲームの要素を組み込むゲーミフィケーションを研修に導入することにより、学習者のモチベーションを高める工夫をしました。研修コースでは、課題(選択式・記述式テスト)を「クエスト」と呼び、受講生は1~4までの全4クエストをクリアすることで研修修了者となることができます。

実施の結果、すべてのクエストを修了した学生は189名で、部局別に見ると工学：125名(66.1%)、生物資源：40名(21.2%)、教育：8名(4.2%)、人文：7名(3.7%)、医学：6名(3.2%)、地域イノベーション：3名(1.6%)でした。2019年度のTA研修修了者は111名であったため、今年度は前年度比で約1.7倍増加したということになります。また、数は限定的ではあるものの、2019年度には見られなかった医学系研究科の院生や、教職大学院の院生、学部生等の参加が今年度は見受けられ、参加者の属性が多様化しました。

事後アンケートで研修の満足度(4件法)を尋ねたところ、全体の満足度としては87%が「3:満足」「4:非常に満足」と回答していました。自由記述欄には、「オンラインでの受講となったが、自分のペースでじっくりと考えることが出来、TAの業務について理解が深まった」というように、オンラインでのオンデマンド形式であるからこそ深い理解に繋がったとする意見や、「敵(いくつかの問題事例)を倒していくオンラインゲーム方式であれば、より多くの人がもっと楽しく受講するかもしれません」という、さらなるゲーム要素の追加を求める声がありました。今回のオンラインTA研修から得られた知見は、今後全学での研修等を企画する際に活かしていけたらと思案しています。(eラーニング・教材開発部門 和気尚美、エンrollment・マネジメント部門 宮下伊吉)

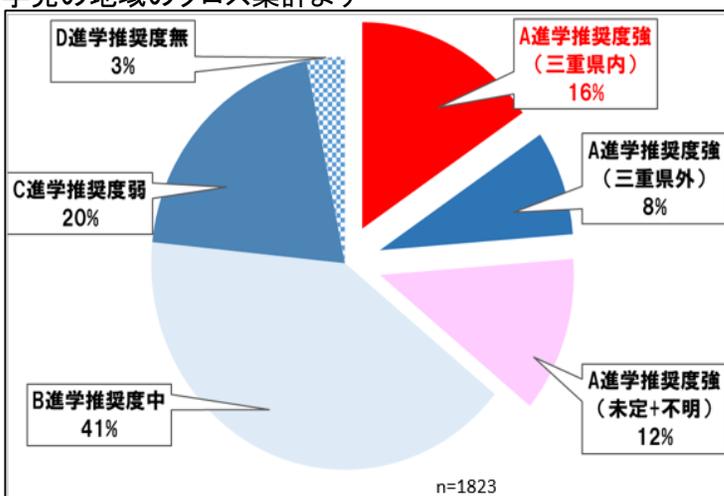


(2019・2020年度のTA研修修了者数および所属部局)

前回より、「ステークホルダーから見た三重大学」の連載を開始しました。第2回目の本稿では、前回に引き続き、昨年11月29日の全学入試委員会でエンrollment・マネジメント部門から報告した「三重県内高等学校1年生の保護者を対象とした意識調査結果」から、本学の現状や課題を明らかにします。三重大学に進学実績のある三重県内の公立高等学校8校の高校1年生(調査当時、現高校3年生)の保護者の有効回答1,823件(回収率87.5%)について、三重大学への進学推奨度(以下、推奨度とする)のカテゴリー別の比率は、進学を薦める(推奨度強+推奨度中の合計)割合は77%ですが、推奨度と第1志望先の大学進学先地域をクロス集計した結果では、A推奨度強36%のうち、三重県内を第1希望の大学進学先地域として考えている三重県内の保護者の割合は16%(283件/1823件=15.5%、円グラフは小数点以下四捨五入)という結果です。三重県内の高校1年生の保護者で、(第1志望として)三重大学への進学を強く推奨していると想定される割合は16%程度といえます。

進学推奨度と第1志望の大学進学先の地域のクロス集計より

	4 つよく薦める 3 まあ薦める 2 どちらともいえない 1 薦めない	(A 推奨度強) (B 推奨度中) (C 推奨度弱) (D 推奨度無)	第1志望の大学進学先の地域			合計
			三重県内	三重県外	未定+不明	
三重大学への進学希望、どの程度お薦めしますか	4		283a	150b	222b	655
			43.2%	22.9%	33.9%	100.0%
			72.0%	25.4%	26.5%	35.9%
3	3		93a	269b	380b	742
			12.5%	36.3%	51.2%	100.0%
			23.7%	45.5%	45.3%	40.7%
2	2		15a	135b	218b	368
			4.1%	36.7%	59.2%	100.0%
			3.8%	22.8%	26.0%	20.2%
1	1		2a	37b	19a	58
			3.4%	63.8%	32.8%	100.0%
			0.5%	6.3%	2.3%	3.2%
合計			393	591	839	1823
			21.6%	32.4%	46.0%	100.0%
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



A進学推奨度強の自由記述

抽出語	品詞/活用	頻度
1 大学	名詞	146
2 国立	名詞	90
3 自宅	名詞	86
4 思う	動詞	78
5 通学	サ変名詞	74
6 希望	サ変名詞	66
7 地元	名詞	61
8 三重大学	組織名	50
9 県内	名詞	48
10 本人	名詞	48

B進学推奨度中自由記述

抽出語	品詞/活用	頻度
1 大学	名詞	89
2 本人	名詞	74
3 自宅	名詞	64
4 通学	サ変名詞	64
5 思う	動詞	62
6 希望	サ変名詞	61
7 国立	名詞	52
8 近い	形容詞	36
9 地元	名詞	32
10 家	名詞C	31

C進学推奨度弱自由記述

抽出語	品詞/活用	頻度
1 本人	名詞	64
2 子供	名詞	36
3 希望	サ変名詞	32
4 大学	名詞	32
5 思う	動詞	26
6 決める	動詞	24
7 学部	名詞	20
8 通学	サ変名詞	18
9 尊重	サ変名詞	17
10 意思	サ変名詞	16

D進学推奨度無自由記述

抽出語	品詞/活用	頻度
1 大学	名詞	17
2 考える	動詞	6
3 思う	動詞	6
4 出る	動詞	6
5 進学	サ変名詞	6
6 学ぶ	動詞	5
7 学部	名詞	5
8 研究	サ変名詞	4
9 県外	名詞	4
10 行く	動詞	4

推奨度別の保護者の意識違いを明らかにするために、カテゴリー別の自由記述についてKH Coderの共起ネットワーク機能を使った頻出語の対応分析を行いました。その結果、A推奨度強とB推奨度中では「自宅」「通学」「国立」「地元」「本人」「希望」が共通していますが、C推奨度弱では「意思」「尊重」が新たに加わって「通学」がみあたらなくなり、さらにD推奨度無では、「出る」「研究」「県外」の語が新たにみられます。D推奨度無の自由記述内容を確認すると、「自立させたい・県外に出て視野を広げてほしい」「学びたい学部・研究室がない」「情報・交流・刺激が少ない」等の記述がみられました。

前回と今回は、保護者の意識調査結果からみた現状をお伝えしてきましたが、次回は高校生調査の結果から、他大学とどう比較されているかなどを明らかにしていく予定です。(エンrollment・マネジメント部門 宮下伊吉)

編集後記

機構ニューズレターNo.55をお届けします。本号は、「コロナ対応に関する各種の本学の取組み」と題して、思いもよらず勃発したコロナ禍において、本学でどのような対応が行われていたかを特集いたしました。

お忙しい中、ご寄稿、ご協力頂きました皆様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。(地域人材教育開発機構 黄文哲、地域人材教育開発機構チーム 川瀬奈津美)

NEWS LETTER vol.55 2020年09月 発行

国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL: 059-231-5615 FAX: 059-231-2354
E-MAIL: chiikijinzei@ab.mie-u.ac.jp
http://www.dhier.mie-u.ac.jp/